

米子工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報リテラシ
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合工学科 (化学・バイオコース)		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	K-SEC情報リテラシー教材, 担当教員の自作教材					
担当教員	原田 篤,内田 雅人,川戸 聡也,林 侑輝					
到達目標						
1. パーソナルコンピュータの仕組みや基本的な用語を理解することができる。 2. オペレーティングシステムの基本操作ができるようになる。 3. 基本的なアプリケーションソフトの操作ができるようになる。 4. ネットワークや情報管理の基礎知識を理解することができる。 5. タッチタイピングができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	パーソナルコンピュータの仕組みや基本的な用語を説明できる。		パーソナルコンピュータの仕組みや基本的な用語をある程度説明できる。		パーソナルコンピュータの仕組みや基本的な用語を説明できない。	
評価項目2	オペレーティングシステムの基本操作ができる。		オペレーティングシステムの基本操作がある程度できる。		オペレーティングシステムの基本操作ができない。	
評価項目3	基本的なアプリケーションソフトの操作ができる。		基本的なアプリケーションソフトの操作がある程度できる。		基本的なアプリケーションソフトの操作ができない。	
評価項目4	ネットワークや情報管理の基礎知識を説明できる。		ネットワークや情報管理の基礎知識をある程度説明できる。		ネットワークや情報管理の基礎知識を説明できない。	
評価項目5	標準的な速度でタッチタイピングできる。		キーボードのレイアウトを把握して、タッチタイピングができる。		キーボードのレイアウトを把握しておらず、タッチタイピングができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A						
教育方法等						
概要	コンピュータは学習や研究を行う上で欠かせない道具である。また、今日の情報化社会では、情報を積極的に活用することが求められている。この授業では、コンピュータの基本的な操作方法、ネットワーク利用、タッチタイピングの練習を通して情報を適切に扱うための基礎知識の習得を目指す。					
授業の進め方・方法	コンピュータの基本操作、オペレーティングシステムやアプリケーションソフトの基本操作、タッチタイピングは講義のほか演習と実習を通して行う。担当教員の注意や指示に従って演習や実習、レポート作成を積極的に行ってほしい。毎週の授業開始にはタッチタイピングの練習を行う。また、授業時間中に講義内容の振り返りの簡単な課題を出す。これらを行わない場合授業態度から減点を行う。課題並びに授業資料等はWebClassにて配布する。					
注意点	中間試験はオフィスソフトで作ったレポートの提出とし、期末試験はCBTによる知識を問うものとする。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス			
		2週	ガイダンス, オフィスインストール, タイピング準備		オフィスソフトのインストールとタッチタイピングの準備ができる。	
		3週	情報モラル		コンピュータやインターネットの利用に係わる情報モラルの知識を得る。	
		4週	基本操作		パソコンの基本的な操作ができる。	
		5週	情報デザイン (ワードプロセッサ)		ワードプロセッサで文書作成ができる。	
		6週	情報デザイン (表計算ソフトウェア)		表計算ソフトを使ったデータ処理と表とグラフの作成ができる。	
		7週	情報デザイン (プレゼンテーション)		プレゼンテーション資料を作成できる。	
		8週	中間試験		オフィスソフトウェアで作ったレポートの作成・提出。	
	2ndQ	9週	情報技術のトレンド, 情報システム		最新の情報技術, 情報システムの知識を得る。	
		10週	ハードウェア, ソフトウェア, アプリケーションソフト		PCのハードウェア構成やOS等のソフトウェアの知識を得る。	
		11週	社会とネットワーク, ネットワークの基礎・概論		インターネットを含むネットワークに関する基礎的な知識を得る。	
		12週	デジタルメディア (Web, メディア)		Webやデジタルメディアの取り扱い方の知識を得る。	
		13週	情報セキュリティ		情報の取り扱いに関するセキュリティや法に関する知識を得る。	
		14週	クラウドと情報技術		クラウドの利用方法や最新の情報技術に関する知識を得る。	
		15週	前期期末試験		これまでの学習成果を確認する。	
		16週	定期試験の振り返り		定期試験の結果を振り返る。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	社会の情報化の進展と課題について理解し説明できる。	2	
				代表的な情報システムとその利用形態について説明できる。	2	
				コンピュータの構成とオペレーティングシステム(OS)の役割を理解し、基本的な取扱いができる。	2	
				アナログ情報とデジタル情報の違いと、コンピュータ内におけるデータ(数値、文字等)の表現方法について説明できる。	2	
				情報を適切に収集・取得できる。	2	
				データベースの意義と概要について説明できる。	2	
				基礎的なプログラムを作成できる。	1	
				計算機を用いて数学的な処理を行うことができる。	2	
				基礎的なアルゴリズムについて理解し、任意のプログラミング言語を用いて記述できる。	1	
				同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在しうることを説明できる。	1	
				情報の真偽について、根拠に基づいて検討する方法を説明できる。	2	
				情報の適切な表現方法と伝達手段を選択し、情報の送受信を行うことができる。	2	
				情報通信ネットワークの仕組みや構成及び構成要素、プロトコルの役割や技術についての知識を持ち、社会における情報通信ネットワークの役割を説明できる。	2	
				情報セキュリティの必要性を理解し、対策について説明できる。	2	
				情報セキュリティを支える暗号技術の基礎を説明できる。	2	
				情報セキュリティに基づいた情報へのアクセス方法を説明できる。	2	
				情報や通信に関連する法令や規則等と、その必要性について説明できる。	2	
				情報社会で生活する上でのマナー、モラルの重要性について説明できる。	2	
				情報セキュリティを運用するための考え方と方法を説明できる。	2	
				データサイエンス・AI技術の概要を説明できる。	1	
評価割合	試験	課題	相互評価	データサイエンス・AI技術が社会や日常生活における課題解決の有用なツールであり、様々な専門領域の知見と組み合わせることによって価値を創造するものであることを、活用事例をもとに説明できる。	1	
				データサイエンス・AI技術を活用する際に求められるモラルや倫理について理解し、データを守るために必要な事項を説明できる。	1	
				データサイエンス・AI技術の利活用に必要な基本的スキル（データの取得、可視化、分析）を使うことができる。	1	
				自らの専門分野において、データサイエンス・AI技術と社会や日常生活との関わり、活用方法について説明できる。	1	

	試験	課題	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	30	0	20	0	0	100
基礎的能力	50	30	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0